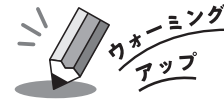


使用教材：教科書『高等学校 新地理総合』 地図帳『新詳高等地図』



地図帳を見てインドの鉱工業について読み取ろう。

問1 『新詳高等地図』（以下、地図帳）p.32 ㊦を見て、インドの鉱工業について記述した以下の文章の（ ）の中で、適当な語句を選ぼう。

インドではさまざまな鉱工業の発達が見られ、首都のデリー近郊には原油を輸送する（タンカー・パイプライン）がある。また、軽工業においては（繊維・機械）工業が、重化学工業においては（食品加工・製鉄）業の発展が見られる。自動車工業では、さまざまな国からの出資が見られ、最も出資の多い国は（日本・アメリカ合衆国）である。さらに、近年は新しい産業である（ICT・ダイヤモンド）産業が栄えており、この産業が盛んな都市がある州ほど1人あたり州内純生産が（低い・高い）傾向が見られる。

問2 （1）地図帳p.32 ㊦を見て、1人あたり州内純生産が3000ドル以上の州を4つ選び、下の表に○を付けよう。

州	（1）1人あたり州内純生産が3000ドル以上の州	（2）州で見られる工業
アンドラ・プラデシュ		
ウェストベンガル		
ウッタル・プラデシュ		
オディシャ		
カルナータカ		
グジャラート		
タミルナドゥ		
ハリヤーナ		
マハーラーシュトラ		

（2）地図帳p.32 ㊦を見て、上の表の州で見られる工業の種類をそれぞれ書き込んでみよう。



地図帳を見てインドと他国との結びつきを読み取ろう。

問3 （1）地図帳p.92 ㊦を見て、アメリカ合衆国との結びつきが見られるインド・中国・日本それぞれの1人あたりGNIを下の表に書き込んでみよう。

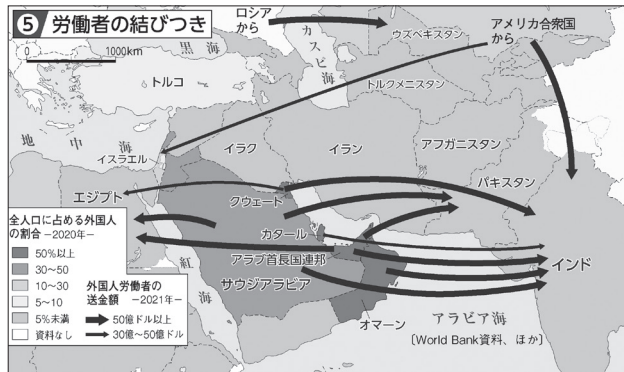
国	（1）1人あたりGNI	（2）アメリカ合衆国に本拠地を置くG社のオフィス数
インド		
中国		
日本		

（2）地図帳p.92 ㊦を見て、インド・中国・日本それぞれのアメリカ合衆国に本拠地を置くG社のオフィスの数を比べ、上の表に多い方から順番に1～3の番号を書き込んでみよう。

（3）『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）p.94や（1）（2）で用いた表をヒントに、インドでICT産業が発達した理由を調べよう。

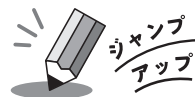
・
・
・
・

問4 （1）地図帳p.38 ㊥を見て、インドの外国人労働者の送金額が50億ドル以上の国の国名に右の地図で○を付けよう。



（2）教科書p.90～91を見て、インドの出稼ぎ労働者がサウジアラビアやアラブ首長国連邦に多い理由を調べよう。

・
・



さまざまな国における経済的な結びつきについて調べてみよう。

問5 地図帳p.160 ㊥を見て、調べてみたい国をピックアップして下の（ ）内に国名を書き込もう。

（ ）から（ ）への移動が多い理由は何だろう？

問6 問5のテーマについて調べ、国際的な移動の背景についてまとめてみよう。

・
・

問7 その移動が原因で起きている課題について調べ、解決策を考えてみよう。

課題

・
・

解決策

・
・

「インドの経済成長と他国との結びつき」に関するワークシートの活用について

大阪桐蔭中学校高等学校 新井 優希

本ワークシートのねらい

本ワークシートは、インドの経済成長と他国との結びつきに関する主題図を読み取ることで、地理的な見方・考え方を働かせながら、諸資料を読み取る力を身に付けることを目的としている。インドは近年目覚ましい経済成長の最中にあり、その理由と他国との結びつきを見ることで、その国の経済成長には複合的な理由があることや、国際的な労働力の移動と工場やオフィスなどの他国からの出資には共通性が見いだせることを取り上げたい。

また、大学入学共通テストでは例年、主題図を正確に読み取る力が試されている。問題演習はもちろん、日ごろから地図帳を用いた主題図の読み取りを行うことで、読図力を高めたい。

主題図からインドの鉱工業や経済水準を読み取る(ウォーミングアップ)

『新詳高等地図』（以下、地図帳）p.32 ㊦ ㊧「鉱工業の分布」から、インドにはさまざまな種類の鉱工業の発達が見られることが分かる。**問1**では、簡単な読み取りが正確にできるかを試したい。また、「軽工業」や「重化学工業」の例を正確に理解しているか、p.32 ㊦ ㊧「1人あたり州内純生産と州別工業生産額」とを見比べて階級区分図の読み取りが正確にできるかを確認したい。**問2**では、2つの主題図を用いて州ごとの経済水準の違い、それに関連する工業の違いに着目させたい。重化学工業やICT産業が盛んな都市が多い州ほど、1人あたり州内純生産は高くなる傾向が見られる。

インドとアメリカ合衆国・西アジアとの関係性を読み取る(ステップアップ)

地図帳p.92 ㊨「世界経済の動きとアメリカ合衆国」の主題図から、インドとアメリカ合衆国の関係性を近隣の中

国・日本と比べながら読み解きたい。1人あたりGNIは、3カ国の中ではインドが最も低いことから「人件費が安い」というアメリカ合衆国側のメリットを読み取ることができる。ただ、インドと同じレベルの1人あたりGNIの国々が、インドと同様にアメリカ合衆国との結びつきが見られるかというところではない。では、インドだけにしかない強みはというと、英語が広く使われていることやアメリカ合衆国との時差が約半日分であること、理数教育が充実していることなどが挙げられる。

次に、地図帳p.38 ㊥「労働者の結びつき」より、アラブ首長国連邦やサウジアラビアといった国々からインドへの外国人労働者の送金額（インドからアラブ首長国連邦やサウジアラビアへの労働力の移動）が多いことを読み取ることができる。これは、近年石油収入を背景に建設業やサービス業が発達した一方、国内の労働力が不足している西アジアの産油国と、賃金の高い産油国に出稼ぎに行くことでより高い報酬を得ることができるインドの労働者の利害が一致することが理由である。

他国の事例から国際的な結びつきについて理解を深めよう(ジャンプアップ)

地図帳p.160 ㊦「国境を越える人々の移動」より、インドの労働者が西アジアの産油国に移動しているのみならず、世界ではさまざまな国の間での人の移動が見られる。解答ではその一例として、トルコからドイツへの人の移動を挙げたが、その他にもさまざまな国際的な移動が見られる。その理由には、旧植民地と旧宗主国との関係や、インドから西アジアの産油国同様、経済水準による賃金の違いなど、調べてみると国によってさまざまな事情があることが分かる。本ワークシートをきっかけに、国際的な人の移動の共通性などについて深く調べることで、さまざまな国の地理的な理解がより深まると考える。

右面の解答例はコピーしてご活用ください。



問1

原油を輸送する（タンカー・**パイプライン**） 軽工業においては（**繊維**・機械）工業
重化学工業においては（食品加工・**製鉄**）業 出資の多い国は（**日本**・アメリカ合衆国）
新しい産業である（**ICT**・ダイヤモンド）産業 州内純生産が（低い・**高い**）

問2（1）（2）

州	（1）1人あたり州内純生産が3000ドル以上の州	（2）州で見られる工業
アンドラ・プラデシュ		自動車・製鉄・ICT
ウェストベンガル		機械・石油精製・繊維・織物・ICT
ウッタル・プラデシュ		繊維・ICT
オディシャ		製鉄
カルナータカ	○	自動車・繊維・織物・電気機械・ICT・機械
グジャラート	○	自動車・繊維・織物・石油精製・ICT
タミルナドゥ	○	機械・自動車・石油精製・繊維・織物・ICT
ハリヤーナ	○	機械・自動車・繊維・織物・ICT
マハーラーシュトラ		機械・自動車・繊維・織物・電気機械・ICT



問3（1）（2）

国	（1）1人あたりGNI	（2）アメリカ合衆国に本拠地を置くG社のオフィス数
インド	5000ドル未満	1
中国	10000～20000ドル	2
日本	20000～40000ドル	3

（3）

- ・理数教育が充実しており、高い技術力を持った労働者が多い。
- ・発展途上国のため、先進国に比べて人件費が安い。
- ・アメリカ合衆国との時差が約半日のため、24時間体制で業務が可能。
- ・イギリスの植民地支配を受けていた歴史を持ち、英語が広く使われている。

問4（1）

（地図に○を付ける国）

アメリカ合衆国 **クウェート** **アラブ首長国連邦** **サウジアラビア** **オマーン**

（2）

- ・近年サウジアラビアやアラブ首長国連邦は石油収入を使い、建設業やサービス業に力を入れているから。
- ・インドより産油国の方が賃金が高く、産油国側も上記の業種の労働力が自国で足りないから。



問5

（例）（トルコ）から（ドイツ）への移動が多い理由は何だろう？

問6

- ・（例）第二次世界大戦後のドイツで労働力が不足し、欧州やトルコなどから労働力を受け入れたから。
- ・（例）トルコよりドイツの方が賃金が高く、労働力の移動が長期化したから。

問7

課題

- ・（例）ドイツ国内では自国民よりトルコ系の人々の方が進学率が平均的に低くなりやすい。
- ・（例）トルコ系の人々が特定の地域に集住しやすく、その地域が敬遠されることもある。

解決策

- ・（例）親への教育制度のガイダンスを実施したり、就学前からのドイツ語教育を充実させる。
- ・（例）住宅政策での混住促進や、地域コミュニティ同士の交流プログラムなどを実施する。